

創作の喜びを生かした漢字・漢文教育

坂田, 慎一
佐賀県立佐賀西高等学校教諭

<https://doi.org/10.15017/9595>

出版情報：中国文学論集. 33, pp.16-21, 2004-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：



〔小特集〕 高校国語科における漢文教育の現状と課題

創作の喜びを生かした漢字・漢文教育

坂 田 慎 一

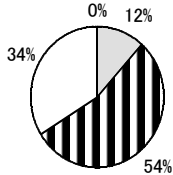
一 漢文を取り巻く高校生の状況

現在、「高校は、……」と一言で説明するのは難しく、普通高校と実業系高校、大学進学中心の高校と専門学校・進学・就職が中心の高校、都市部と地方といった地域差を考えると、抱えている問題や生徒・学校の目標は、教師間ですら話が合わないこともあるほど大きな違いがある。漢文を授業時間としてどの程度取り扱うかについても、これらの学校ごとのカリキュラムで大きく異なっている。ただ、生徒の進路や学校の特色を出すのに必要な科目を優先していくと、日常生活や就職後に直接に使わない漢文の取り扱いが相対的に少なくなるのもやむを得ない点がある。極端な場合、一年で国語総合、二・三年で古典（古文・漢文）を選択履修するカリキュラムならば、一部の生徒は高校一年で古典の授業を終えてしまうことになる。また二年・三年生の古典の授業が確保されていても、就職・進学のための試験が近づき、生徒が現代文・古文だけを課されているならば、漢文の割合は削らざるを得ないのが実情である。漢文を除く国語という形での出題はあるものの、センター試験・大学・短大の入試で漢文が課されているのは、高校生が漢文を学ぶ機会を失わない強い歯止めになっているのも確かである。

以前、生徒の漢文に対する意識を調査したおり、次項のような結果が出た。すなわち、生徒の四分の三以上が漢文への関心はないと答える残念な結果なのだが、関心を持たない生徒の六割は内容が分からないことを理由に挙げている。口語訳を与えても話を理解してもらえない場合もあるなど、漢文に出てくる単語・習俗・時代背景といっ

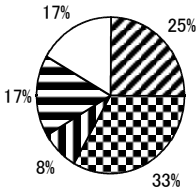
【Q高校2年生67名を対象としたアンケート】（平成9年）

漢文の学習にどれくらい興味があるか



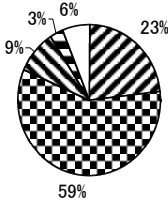
- A, (0%) 強くある
- B, (11.8%) 少しある
- C, (54.4%) あまりない
- D, (33.8%) 全くない

関心が「ある」のはなぜか（複数解答可）



- A, (25.0%) 内容が面白いから
- B, (33.3%) 訓読が出来るから
- C, (8.3%) 教養(知識)として必要だから
- D, (16.7%) 受験が必要だから
- E, (16.7%) その他

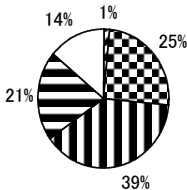
関心が「ない」のはなぜか（複数解答可）



- A, (23.1%) 内容が面白くないから
- B, (58.5%) 内容が分からないから
- C, (9.2%) 訓読が出来ないから
- D, (3.1%) 受験に必要なから
- E, (6.2%) その他

漢文の授業への要望（複数解答可）

*受験は考えない



- A, (1.4%) 授業を増やして欲しい
- B, (25.0%) 授業内容を工夫して欲しい
- C, (38.9%) 内容・時間とも今くらいでいい
- D, (20.8%) 授業を減らして欲しい
- E, (13.9%) 完全に無くして、他のことをして欲しい

たものは、生徒にとっては大きな抵抗感があり、それが漢文に親しむことの障害になっているようである。漢文の授業批判として、文法指導や口語訳に偏り過ぎることがよく取り上げられるが、意外にも、漢文に関心を持つ生徒の三割が関心を持つ理由として訓読が出来ることをあげるなど、訓読ができる達成感や漢文学習への動機づけとなっている。

またこの調査の際、更に意外であったことは、生徒達に「漫画」で読んだことのある中国古典の名前を挙げてもらうと、『封神演義』『西遊記』『三国志』『水滸伝』『項羽と劉邦』（史記）などの回答が得られ、また授業で、「紅一点」「四面楚歌」「蛇足」などの故事成語を扱うと、言葉は知っていても出典が中国古典であることには初めて気付く生徒が多いことである。生徒達は意外にも中国古典に日常触れているのである。また、平素漢文の授業には興味を持ちにくい生徒達も、漢字の持つイメージや漢文の響きには関心を持っており、体育祭や卒業文集作りの時期には、普段古典に関心を示さないような生徒が四字熟語・故事成語集などをめくって応援の言葉等を探す姿が見られる。例えば、「栄枯盛衰」「花鳥風月」「獅子奮迅」「疾風迅雷」「拔山蓋世」などがそうである。

二 漢詩創作の学習実践

古典学習の目的には、「ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる」（高等学校学習指導要領 国語「古典」の目標）ことがある。漢文を身近なものに感じさせるために、平素の作品読解・鑑賞の授業形態を破り、少々強引ではあったが生徒達に「絶句」と指定して漢詩を作らせたことがある。

絶句は、二〇字～二八字と少ない字数なので作品全体を見わたしながらの創作が容易で、また少しの訓読の工夫次第で表現に大きな幅を作り出すことも可能な一方、字数の制約がある中で自分が「何を」本当に表現したいのかを問いつながら言葉を選選していく作業も期待できる。実践に当たっては、以下のようなことに留意した。

(1) 「漢詩創作手順表」（次項参照）と「漢詩創作ワークシート」（次頁参照）を利用して、生徒が作業全体の流れを掴みながら各自のペースで創作出来るようにする。

(2) 創作途中に文法や修辭法の知識を持ち出すことで、その定着と関心喚起を図る。ただし、やたらに細かな文法事項を教えることはせず、生徒が表現で悩んでいる点の助言のみにとどめる。

(3) 漢詩への抵抗感を減らすため、正式な漢詩を作ることを目的とはせず、押韻・内容の区切れ・文語などの規

則はある程度無視する。

そこで次のような作品が得られた。

不思議空

大広果無続大空

朝昼晴日水色空

夜黒空有美輝星

本当驚異不思議

不思議な空

大きく広く果て無く続く大空

朝・昼晴れた日は水色の空

夜の黒い空は美しく輝く星を有す

本当に驚異なる不思議

冬魔法使

丸背中歩外

自増居暖所

降雪魔法使

我漸温心体

冬の魔法使い

背中を丸めて外を歩く

自ずから増える暖かい所に居ること

雪を降らす魔法使い

我漸く心と体を温かくす

我高校生活

回想高校思出多

三年生活充実良

常部活不遊残念

卒業振返今多懐

我が高校生活

高校を回想すれば思い出多し

三年の生活充実して良し

常に部活し遊ばず残念

卒業し今を振り返れば多くは懐かし

夢一步

何度挫折即合格

夢の一步

何度も挫折して即合格す

我昔夢道一步開 我の昔からの夢の道一步開きたり
世界思辛苦事在 世界には辛く苦しい事が在ると思う
願其不負我職 其れにも負けず我が職にと願う

三 実践後の考察

創作活動を通して、「主語＋述語＋目的語」といった普段気に懸けていなかった基本的な文法が自分の作品は合っているのかと考え込み参考書を見直す姿も見られ、生徒は自分の知識のあやふやさを実感するとともに、漢詩を作ることに関心を感じ、今後の学習には好影響を与えたと思われる。

生徒の自己評価からも、表現を向上させようとする中で、漢文の文法・修辭法の大切さに気付いたり、自分の伝えたい内容を表現できたか検討する者が多くいた。

漢文に親しませる点においては、創作をしたことで、以後漢詩鑑賞などを行う際、その表現が簡潔で豊かなイメージを表していることをより実感できるようになるのではないかと思える。また創作させる際、漢字を並べるだけのレベルから、詩としての内容を充実させていかせる工夫がまだまだ必要とされるが、授業時間の制約を考慮していくと再度の実践を行うことは難しい。

土曜休みで授業数自体が減り、加えて選択科目が増える中、漢文を教える時間が今後増えることは難しく、生徒の意識も入試で点数的に大きく占める科目や英語のように必要性が実感しやすい科目に向かいがちである。漢文が不得手な生徒の中には、「昔のことをなぜ勉強しなければならないのか。」と質問してくる者もあるが、一方卒業生と話をするとき、かつて授業中に音読させた漢詩などを何年たっても覚えていたりすることがある。漢文を学んだ効果はすぐに形には表れるものではないが、生涯にわたっていつか生活のどこかで出てくれると思えば、これからの指導の工夫を行っていきたいと考えている。